

みんなで考えよう
公共交通②



「住民自らが 創り 守り育てる」の実践を高く評価

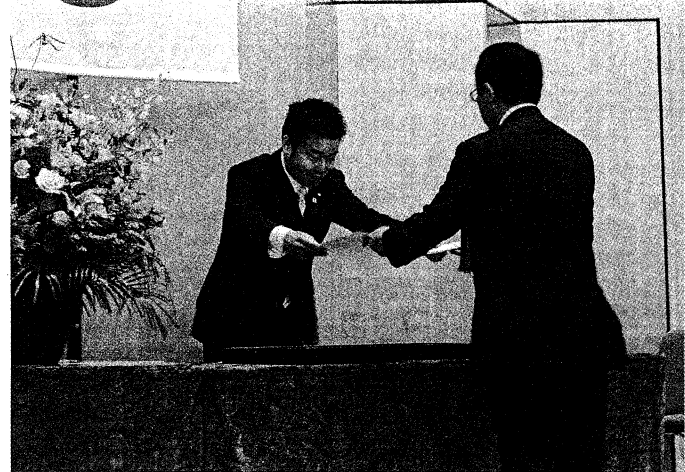
国土交通大臣表彰を受賞

問い合わせ 地域公共交通活性化協議会 (市民課内) ☎2142

市民の皆さんとともに

国土交通大臣表彰を受賞しました

市内の公共交通を利用しやすくするため、市民、事業者、行政などが一緒になって考える組織として平成20年に設立した大竹市地域公共交通活性化協議会。このたび、この協議会が「地域公共交通活性化・再生優良団体」として、国土交通大臣表彰を受けました。



表彰状
国土交通大臣(写真左)から表彰状を受け取る小田会長(写真右)。

これは、公共交通への取り組みが顕著な団体の功績をたたえる目的で昨年度から始まったもので、今年度は全国で5つの団体が選ばれました。6月18日、その表彰式が行われ、中国地方で初の受賞団体となりました。

大竹市の場合は、積極的な住民参画により「幹線+支線」という独自の交通体系を構築したことが高く評価されました。とりわけ、公募による市民委員が中心となり幹線バスの検討を進め、率先して利用促進に取り組んだことや、三ツ石地区の住民が一体とな

大竹市の公共交通は、まだ始まったばかりです。この受賞を励みとして、いつまでも安心して暮らせるまちの実現に向け、引き続き取り組んでいかなければなりません。そのためには栗谷線、坂上線などの既存路線の改善に加え、支線交通

いつまでも安心して暮らせるまちづくりのために

をさまざまな地域へと拡充していくことが必要だと考えています。10年後、20年後、市民の皆さんに「乗るほど なるほど 便利じゃね」と実感してもらえることが、本当の意味での「表彰」だと思います。これからもご協力をお願いします。

「幹線バス×タクシー」で交通弱者に配慮

大竹市が国交相表彰

幹線バスとタクシーを組み合わせて、高齢者など交通弱者に配慮しながら利便性を高める大竹市の取り組みが、国土交通省の「10年度地域公共交通活性化・再生優良団体大臣表彰」に選ばれた。アンケート調査や検討会、宣伝活動などに住民が主体的にかかわることも高く評価された。中国地方では初の受賞となった。【星大樹】

中国地方で初めての受賞

同市や中国運輸局、運行業者、住民代表などをつくる「大竹市地域公共交通活性化協議会」の取り組み。市役所など公共施設や商業施設が集中する市街地で「おおたけ幹線バス」を運行。バス路線と住宅地をタクシーで結び、高齢者などにも使いやすい交通システムを構築した。大竹市は、JR玖波



住民の新たな足として定着しつつある幹線バス
＝大竹市新町1のJR大竹駅前で

大人200円（小学生100円）。当初、1日平均140人だった乗客は今年6月現在164人まで増えた。市街地の商業施設に行く

住宅地を迂回せず、駅と公共施設だけを結ぶようにし、高台の住宅地とはタクシーで接続した。約400人が住み、高齢者が約43%の三ツ石地区では、事前

ため毎週利用する同市油見3の無職、沖谷香さん(68)は「以前は20分かけて歩いていましたが、バスで便利になった」。住宅地を迂回せず、駅と公共施設だけを結ぶようにし、高台の住宅地とはタクシーで接続した。約400人が住み、高齢者が約43%の三ツ石地区では、事前

大竹市協が国交相表彰

公共交通を活性化 地域公共交通の活性化に功績があった団体を顕彰する国土交通大臣表彰に、大竹市地域公共交通活性化協議会（小田光範会長）が選ばれた。大臣表彰は昨年度始まり、中国地方では初の受賞。同協議会は、市民の利便性と採算性を両立させる交通手段を官民で考えるため、2008年3月に発足。昨年10月からJR山陽線の大竹一玖波駅間で主要施設を結ぶ幹線バスと、幹線バスに接続する乗り合いタクシーを組み合わせた実証実験を進めている。国交省は、住民代表を協議会に迎え、分科会委員を公募するなど利用者の意見を反映させる姿勢や、幹線バスと乗り合いタクシーを乗り継いだ場合に、運賃を割り引く利用促進策を評価した。

も分科会メンバーによるボランティア。同市市民課の香川晶則主幹は「(バスを)続けてほしいという応援メッセージがたくさん寄せられる。長続きさせるには、市と住民が一体となって取り組むことが重要」と話す。

全国の受賞5団体の表彰式が18日に東京都港区であり、三日月大造国交副大臣が表彰状を贈った。小田会長は「受賞を励みに、10年後も今の取り組みが続けられるよう頑張りたい」と決意していた。